

第4学年 国語

第4学年の学習到達目標

- (1) 相手や目的に応じ、調べた事について、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

第4学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	一 人物の気持ちを想ぞうしながら声に出して読もう こわれた千の楽器 ふしぎ よかったなあ	場面の様子や人物の気持ちを想像し、想像したことが聞き手に伝わるように工夫して声に出して読む。	場面の様子や人物の気持ちを想像しながら声に出して読む。 [速さと間の取り方]
	漢字辞典の使い方を知ろう /言葉の広場	漢字辞典の仕組みや使い方を知り、漢字の学習に活用する。	漢字辞典の使い方
	二 出来事をしょうかいする スピーチをしよう 知らせたい、あんなことこんなこと	必要なことを落とさずに、声の大きさや速さ、間のとり方を考えて話す。	身近な出来事から話題を選び、構成を考えてスピーチする。
	お礼の手紙を書こう	お世話になった人にお礼の手紙を書き、相手に気持ちが伝わる文章を書く。	形式に沿って、お礼の手紙を書く。
	主語と述語の関係をとらえよう /言葉の広場	主語と述語について理解し、文の構成上の役割を知る。	主語・述語、主語の省略
	三 だん落とだん落の結び付きを考えながら読もう ヤドカリとイソギンチャク	段落相互の関係を考え、書かれていることを正しく読み取る。	段落相互の結び付きを考えながら、内容を正確に読み取る。
	電話で伝え合おう	電話で話すときに大事なことを落とさないために、話し方や聞き方で注意することを理解する。	電話で正しく伝え合うために話し方、聞き方を知る。
	漢字の読み方に気をつけよう /言葉の広場	漢字の音訓や送り仮名について理解する。	漢字の音訓、送り仮名
	四 物語のもり上がりを考えながら読もう 夏のわすれもの	物語の出来事の流れを読み取り、もり上がりをとらえる。	大切だと思ふ文に注意しながら、物語の盛り上がりをとらえて読む。
	自分新聞を作ろう	伝えたいことを分かりやすく新聞記事として書く。	5W1Hなどの大事な要素を落とさずに、新聞記事を書く。
後期	五 すじ道なたてて説明しよう 「くらしの百科」の時間です ローマ字1	「生活のくふう」について調べ、聞き手の興味をひくような工夫をして、筋道を立てて説明する。 ローマ字で書かれた簡単な単語を読みローマ字を使って単語を書く。	生活に役立つ工夫について調べ、筋道を立てて説明する。 訓令式の表記
	一 愛の心をえがいた物語を読もう 世界一美しいぼくの村	人物の気持ちや場面の様子に注意して、物語の出来事の流れを読み取るとともに、読んだ本についての感想を伝え合う。	出来事の流れを読み取り、人物の心情について考える。 愛の心を描いた本を読んで紹介する。(読書)
	心の目を開いて	感じたことや想像したことを、表現を工夫して詩に書く。	感じたことや想像したことを詩に書く。
	二 いろいろな環境を守るくふうについて調べよう ウミガメのはまを守る	事柄のまとまりごとに書かれている内容を正しく読み取り、環境保護の工夫について調べる。	まとまりごとに書かれている内容を読み取る。
	文と文をつなぐ言葉の働きを考えよう /言葉の広場	文と文を接続する言葉の働きを理解する。	接続語

	三 中心をはっきりさせて書こう 活動ほう告を書こう	段落と段落の続き方に注意して、伝えたいことの内容をはっきりさせて文章を書く。	文章構成に注意し、伝えたいことを明確にして報告文を書く。
後期	四 暮らしの中の世界について話し合おう 暮らしの中のと洋	「和」と「洋」の対比に注意して文章の要点を読み取り、暮らしの中にある日本の文化と外国の文化について考える。	考えたことや調べて分かったことをグループやクラスで話し合う。
	漢字を正しく使おう/言葉の広場	それぞれの漢字には意味があることを理解し、同訓・同音の漢字を正しく使い分ける。	同音・同訓の漢字
	五 人物の気持ちのうつり変わりを考えよう ごんぎつね	場面の移り変わりや人物の気持ちの変化をとらえ、心に強く残ったことを考える。	場面と場面の関係に注意し、人物の気持ちの変化を想像して読む。同じ作者の本を読む。(読書)
	六 伝えたいことを選んで書こう 一年間の思い出をしようか いしよう	一年間の思い出から題材を選び、紹介の方法を工夫して書く。	一年間の思い出を新聞や文集にまとめる。
	ローマ字2	身近な生活の中のローマ字表記について知り、ローマ字の読み書きに慣れる。	ヘボン式の表記

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】 国語に対する関心をもち、進んで話し合ったり、適切に書いたり、読書の範囲を広げたりしようとしている。</p> <p>【話す・聞く能力】 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話したり、話の中心に気を付けて聞いたりしている。</p> <p>【書く能力】 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書いている。</p> <p>【読む能力】 目的に応じ、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読んでいる。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 音声、文字、語句、文や文章、言葉遣いなどの国語についての基礎的な事項について理解している。</p>	<p>(2) 評価の方法</p> <p>ペーパーテストだけでなく、日常の学習の様子、発言、ノート、作文・日記、疑問・願いなどから多面的に評価します。</p> <p>自己評価や相互評価など、多様な評価方法を取り入れ、指導に生かしていきます。</p>
---	---

特色ある学習方法

<p>(1) 関心・意欲を引き出すために、コンピュータを活用したり、ゲームやクイズなどの活動を取り入れたりします。</p> <p>(2) 朝の読書タイムを活用して、心を広げる読書活動を進めます。</p> <p>(3) 劇や新聞作りなどの表現活動に取り組み、いろいろな場面で発表していきます。</p> <p>(4) 調べ学習など児童が自分で考え、学習していく活動を重視し、総合的な学習の時間をはじめ他の学習活動とも関連づけながら進めます。</p> <p>(5) 聞く・話す・読む・書くという基礎的な力を身に付けるために、目標を重点化し、繰り返しの学習を積み上げたり、個別学習を取り入れたりしながら個々の実態に合わせて進めます。</p>
--

使用教材等

<p>教科書 「新しい国語4年」(東京書籍)</p> <p>漢字ドリル</p> <p>CD, カセットテープ, ビデオテープの活用</p> <p>目的に応じて相手と伝え合う力は、これからますます必要になります。効果的な話し方や読み方を具体的に示すことにより、個々の表現活動を工夫していく手がかりとなります。</p> <p>関連図書の活用</p> <p>教科書教材と関連付け、同じ作者の他作品や類似のテーマの作品を取り入れていくことで、自分の考えをより深めたり、読書活動を広げたりします。調べ学習では、学校図書館を軸に、自主的に課題を追究できる力へつなげます。</p>

留意事項

<p>(1) 家庭での音読にご協力をお願いします。</p> <p>文章を正しくすらすら読めることは内容理解につながります。毎日の課題として音読を出しますので、聞いてあげてください。そして、家族団らんの時間にお子さまの伸びを話し合ってください。</p>

(2) 漢字学習に根気よく取り組めるように支援をお願いします。

中学年は、新しく学習する漢字の量がとても多く漢字嫌いの子が増える時期でもあります。楽しく、やる気を持って取り組める工夫をしていきますが、こつこつ丁寧に取り組むことが何よりも大切です。